

## 投資事業評価調書（新規）

部課室名	県土整備部土木局 地域道路室	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	地域道路室長 中村 誠 (橋梁・市町道係長 谷口徳男)	内線	4 3 6 2 ( 4 3 7 8 )
------	-------------------	---------------------	--------------------------------	----	------------------------

事業種目	道 路	事業名	事業区間	総事業費	3.5億円
		永久橋架替事業 (主)養父宍粟線 南溪橋	養父市大屋町系原	内用地補償費	0.8億円
所在地			事業採択 予定年度	着工予定 年 度	完成予定 年 度
養父市大屋町系原			平成21年度	平成21年度	平成25年度
事業目的			事業内容等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ (主)養父宍粟線は養父市と宍粟市を結ぶ幹線道路であり地域の生活道路となっている。</li> <li>・ 南溪橋は(一)明延川に昭和12年に架橋され、70余年が経過している。万が一交通が寸断された場合には近くに迂回路がないため、橋梁を架け替えることにより、円滑かつ安全な交通の確保を図る。</li> <li>・ 本路線は、合併支援道路に位置付けられており橋梁前後の整備済みの道路改良区間と連続した整備を図り、養父市中心部と大屋町南谷地区との連携を強化する。</li> </ul>			老朽橋架替 1橋 L = 43.8m 取付道路(橋梁含む) L = 620m 合併支援道路 【構造規格】3種4級 【計画幅員】W = 5.5 (7.0) m (2車線) 【現況幅員】W = 5.0 m 【計画交通量】1700台/日(H42) 【現況交通量】1807台/日(H21実測) 【費用負担】県10/10(永久橋架替事業)		
評価視点	評価結果の説明				
(1) 必要性 安全・安心を確保する道づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本路線は養父市と宍粟市一宮町を直接結ぶ唯一の幹線道路であり、養父市大屋町の重要な南北幹線道路として地域の発展を支える道路である。また、防災面、医療福祉等への利用に重要で、養父市の合併支援道路である。</li> <li>・ 橋梁付近区間は人家連担となっているため、視距が確保されておらず、幅員が狭小W=3.8(4.8)mで、線形も悪く、円滑かつ安全な交通の確保に支障となっている。</li> <li>・ 当該橋梁は昭和12年の架橋であり70余年が経過しており、平成17年度の点検結果によると、橋脚や床版に損傷が認められ、追跡調査を行う必要があるとされている。また、劣化損傷による落橋等により通行が寸断した場合の迂回路は国道429号 (主)養父朝来線となり約70kmとなる。</li> </ul>				
(2) 有効性・効率性 有効性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 費用便益比 B / C = 1 . 1</li> <li>・ 今回整備する取付道路の前後は、道路改良が実施されており、前後区間と合わせて2車線改良が完了する。</li> </ul>				
代替性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現位置での橋梁架替えは、仮橋や複数の物件移転が必要となるなど、工事費および補償費が増大するため、上流230m地点での架替えを行う。</li> </ul>				
効率性 (事業執行環境)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市町合併(平成16年4月)に際し早期の道路整備が必要として推進協議会が設立され、地元説明会を通じた地元合意も得ており、円滑な事業実施に向けた地元の協力体制は整っている。</li> </ul>				
(3) 環境適合性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通過交通が(仮)新南溪橋に転換することにより、現道を利用する歩行者の安全確保が図られ、現道沿い集落の騒音低減など生活環境の改善が図られる。</li> </ul>				
(4) 優先性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 旧橋梁および旧道は、養父市による引受の内諾を得ている。</li> </ul>				

(主)養父穴粟線 系原

スケジュール

新規事業

当初計画

	H21	H22	H23	H24	H25
橋梁詳細設計	■				
用地補償	■	■			
道路改良		■	■	■	■
橋梁下部工		■	■		
橋梁上部工			■	■	

B / C根拠

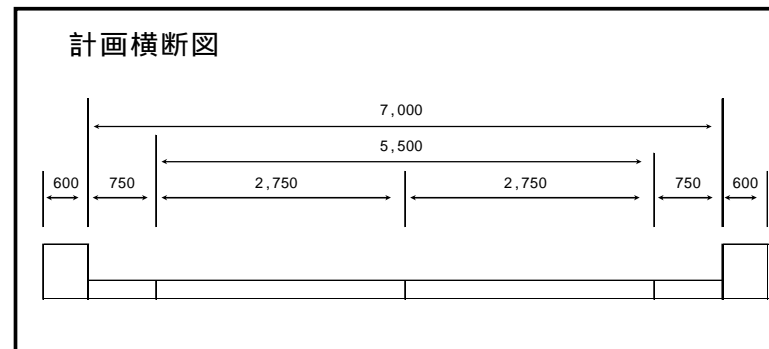
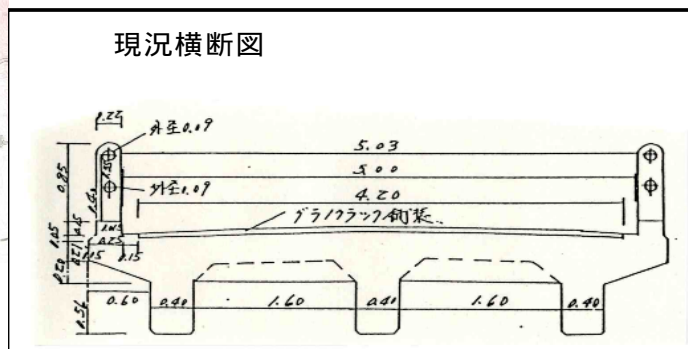
便益(B)の項目

事業	B(便益)	算出方法
道路	走行時間短縮便益 目的地までにかかる時間が短くなることによる便益	整備無しの走行時間費用 - 整備有りの走行時間費用 走行時間費用: (交通量 × 走行時間) × 時間価値原単位 × 365日
	走行経費減少便益 交通の流れがスムーズになり燃費などが向上することによる便益	整備無しの走行経費 - 整備有りの走行経費 走行経費: (交通量 × 距離) × 走行経費原単位 × 365日
	交通事故減少便益 交通事故が減少することによる便益	整備無しの事故損失額 - 整備有りの事故損失額 事故損失額: [交通量 × 距離 × 交差点以外の事故損失原単位 + 交通量 × 主要交差点数 × 交差点部事故損失原単位]

費用便益比(B / C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)		C(費用)			B / C
		便益額 (百万円)	代表的な効果	総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)	
道路	老朽橋架替事業	走行時間短縮便益	357	336	314	22	1.1
		走行経費減少便益	0				
		交通事故減少便益	-4				
		計	353				

# (主)養父穴栗線(南溪橋)位置図





# 南溪橋 損傷状況写真



床版地覆部の鉄筋の露出



橋脚部の主桁鉄筋の露出



# (主)養父穴栗線(南溪橋)位置図

